

# 京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2012年12月1日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

第6号

## 東九条での「フィールドワーク」の課題

～第2回事業推進委員会での議論から～

10月2日に、ネットワークサロンの事業を円滑に進めるための第2回事業推進委員会が開かれました。この日は、ネットワークサロンが東九条で実施しているフィールドワークについての議論がおこなわれ、私は、大学の授業として受け入れているフィールドワークは、単位取得だけが目当ての学生が多く、東九条についての講義をおこなっても、ほとんど聞いていない現状を報告しました。委員の先生からは、大学の教員の中には「現場に任せたら何とかなる」との考えもあり、教員側に「何のためのフィールドワークなのか」を明確にしてもらい、場合によっては断る必要もあるとの意見が出されました。この意見に対して別の委員からは、「私たち-in日コリアンは、踏みつけら虐げられてきたのだから、一人でも多くの人に理解してもらう機会を大切にしたい」との意見がありました。二つの意見は、どちらが良いというものではなく、多くの考えなければならぬ内容が含まれています。これらの意見を踏まえながら、ネットワークサロンとして、内容を充実させた、より良いフィールドワークを企画していきたいと考えています。



(前川 修) 労働相談まどぐちから依頼を受けて実施したフィールドワークの風景

## 報告①

第4回世界の料理教室  
「タイ風グリーンカレー」に参加して

私は、東九条まちづくりサポートセンター <まめもやし> で仕事をしながら、この地域に住んでいます。世界の料理教室には個人的に何回か参加していて、いつも楽しみにしています。今回は「グリーンカレーとブアローイサムシー（ココナッツミルクのおやつ）」というタイの家庭で作っている料理を教えてくださいました。講師のスパッター岡崎さん

は、参加者に「とてもおいしいから、ぜひ覚えて帰ってね!!」と言われ、レシピも配られました。グリーンカレーを食べるのは初めてだったのですが、本当においしく、ピリッとしているところがなんともいえない感じ。ボリュームもあり、満足でした。分からないこともすぐ聞けるよい雰囲気、さっそく帰って作ろうと思いました。地域のお年寄りや親子連れ、初参加の若者などもいました。参加費や申込制の気軽さ、普段は味わえない交流が魅力的です。ぜひ、一度世界の料理教室に参加してみてください。（松川 さち代）

## 材料（4人分）

とりもも 1枚  
なす 3個  
竹の子（水煮）100g  
赤ピーマン 1個  
グリーンカレーペースト 50g  
ココナッツミルク 1缶（400ml）  
ナンプラー 1.5大さじ  
赤砂糖 1.5大さじ  
バイマクルー 2, 3枚  
ごはん 適量 塩・油

## ★作り方★

1. 鶏肉は余分な脂を取り除き、筋切りにして一口大に切ります。
  2. なすはヘタを取り、長さを半分にし、さらに、4等分に縦に切り、薄い塩水につけてアク抜きし、水気を切ります。
  3. たけのこは小さめの薄切りにし、赤ピーマンは縦に半分に切って種を除き、細切りにします。
  4. 鍋に油大さじ2杯を熱してグリーンカレーペーストを入れ、弱火で約1分炒めます。香りが出たらココナッツミルクの濃い部分（缶の上部）を約200mlすくい取って加え、混ぜながら熟します。
  5. 油が分離して浮いてきたら鶏肉、たけのこを加えて中火で炒め、肉の色が変わったらナンプラー、赤砂糖を加え、水1カップを注ぎます。
  6. （5）に、なす、赤ピーマン、バイマクルー、残りのココナッツミルクを加え、約8分煮込みます。
  7. 器にご飯を盛り、（6）をかけます
- ※一口メモ：好みで仕上げにバジル（玉）をちぎって加えてもおいしいです。

## 登録団体を通して感じるネットワークサロンのつながり

私は、希望の家の高齢者交流室「にこにこや」でボランティアを月に数回しています。地域のお年寄りたちや地域の役員さんが生き生きとしておられる姿に元気を頂いています。普段は、ネットワークサロンの登録団体の一つである柳原銀行記念資料館のスタッフをしており、被差別部落の歴史や文化を紹介しています。



第6回世界の料理教室アイヌ篇（2012年3月）

今年の春には、企画担当として「アイヌ・ネノアン・アイヌ～人間らしい人間」という企画展を開催し、ネットワークサロン主催の「世界の料理教室」の一環としてアイヌ料理の体験と、刺繍体験を共催することができました。その成果もあり、今まで参加してきたアイヌ・沖縄を考える会という団体も、登録団体の一員になることができました。41ある登録団体の中でも、反貧困ネットワーク・京都や京都暮らし応援ネットワーク、きょうと労働相談まどぐちなどにも参加しており、4月に行われた東九条春まつりの時には、様々な団体の活動を知ることができました。ネットワークサロンを通じていろいろな連携が生まれていく場に立ち会えることに、魅力を感じています。

（木村 理恵）

### 高齢者の在宅生活を支える知識と技術

～第3回・第4回ボランティア講座～

報告②

第3回ボランティア講座は、高齢生活研究所所長・むつき庵代表の浜田きよ子さんを講師に迎え、「高齢者の在宅生活を支えるために必要なこと～暮らしと道具を支える工夫」を開催しました（9月8日）。生まれ育った西陣で経験した父親の在宅生活支援を通じた「道具を工夫する知恵」に関心させられました。第4回は、「介助実技講座～あなたとわたしにやさしい身体介助」を行い、崇仁デイサービスうるおい・高齢サポート下京東部を講師に迎え、高齢者の身体的な状況に合わせた車いすを中心とした介助知識を体験を通して学び、東九条地域の福祉活動を支えるボランティアのニーズに合わせた、企画を実施することができ、高齢者の在宅生活を支える知識と技術を向上させることが今後も必要です。

（山本 崇記）

(シリーズ)登録団体との連携・紹介(6) 共同作業所みやび

## 使い捨てではない働き方を目指す



私たちみやびでは、派遣切りや会社倒産等により仕事や住む家をなくした人たちと共に社会復帰を目的とした仕事づくりを自分たちで営業し仕事をしています。日雇い労働者や野宿者にとって仕事おこしとは、どんな意味があるのか?!仲間たちは、皆、安心して働き暮らしていける仕事を求めています。「仕事おこし」。これから始める事業が使い捨てではない働き方を目指さなくては、仲間たちにとって何の意味も持たないと思っています。08年出発当時、この仕事おこしが、事業として成り立ち「飯」が食える計画が初めからあった訳ではありません。最低賃金を払える仕事を作り出していけるか!不安でした。実際、半年間は賃金一配当が全くできませんでした。でも、明確にしたのはこの仕事おこしを共にしている仲間の生存条件を全力で支えるという点です。鴨川のテント小屋を守り、一緒に飯を食い、一緒に働き、一緒に生きていく、これが原点です。偏見の問題も含め、ネットワークサロン団体様との意見交換も大事にしていきたいと思ひます。

(共同作業所みやび代表 城地 昭博)

## 多文化共生とは……

10月7日、故郷の家・京都で「民族まつり／マダン全国交流シンポジウム」が催された。全国各地から、標題の如き、またはそれに類するイベントを運営する約20団体の関係者が一堂に会し、東九条からは「東九条春まつり」と「東九条マダン」の代表者が参加した。

私が進行役を務めたシンポジウムでは“地域との関わり”“多文化共生の中味”を議論したが、ここでは後者に関する意見を幾つか紹介したい。ある参加者は、少数者が多数者の期待に応えることで成り立っている“多文化共生”に疑問を投げかけた。また別の参加者は、多文化共生以前に“異文化認知”を意識する必要性を述べた。一方、行政等の支援を得るため聞こえのいい“多文化共生”を謳うのだと、割り切った考え方を示す人もいた。

なるほど“多文化共生”とは曖昧な概念である。文化的背景を異にする人と人が、互いの文化に敬意と関心を抱き、対等に向き合い、一つの生活世界を共有する…とでも定義すべきなのだろうが、きれいごとには墮してしまふ恐れもある。その中味について常に沈思し検討を加えながら、実を伴った多文化共生空間の創出を心がけていきたいものだと改めて思う。

(東九条マダン事務局長 渡辺 毅)



10月7日、故郷の家・京都で行われた民族まつり／マダン全国交流シンポジウム

## 地域福祉の現場から（1）〈座談会企画〉

# 喫茶・会食を通じた「寄り場」の役割・後篇

東九条地域の福祉の現場から、地域の高齢者の状況や事業の連携などをご紹介します。今回は、喫茶や会食などを通じて気軽に高齢者が立ち寄れる場を提供しているエルファ、まめもやし、希望の家の三団体に集まってもらいました。今回は、第4号に続き、後篇をお届けします。

### ◇食事の味付から気づくこと～食べるという楽しみ



エルファの会食

鄭明愛（エルファ）：食事の味付けなんですけど、どうしても濃いものになってしまうことがありますね。

村田牧子（希望の家）：油ものが人気です。（笑）

村木美都子（まめもやし）：高齢者には糖尿病食なども必要ですけど、お肉も食べたいですよ。

鄭：まずはおいしくたくさん食べることが大事と、大学の先生なども仰られていますね。

村木：それぞれ事業所同士の情報交換はもっとしたらいいと思います。共通している利用者もいるし、その人が

どういう行動をしているかが分かると、利用者の方のために連携の可能性が出てくるのではないですか。

村田：例えばYさんなんかは、うちでは合わなかあったみたいで。シルバーハウジングに住んでいます。その弟さんがエルファのデイサービスに来ているようですね。

鄭：希望の家の配食をとられていてエルファのデイサービスも利用している方がいます。

村田：Yさんは、希望の家では週一度だけの配食ですが、お出かけのお誘いもしています。

### ◇制度外での選択の幅～利用者のニーズに立脚して

村木：東九条では介護保険制度が始まる前からいろいろな事業所がサービスの提供をしてきました。だから、在宅生活ができているのです。居場所的なものもぽつぽつとあります。東松ノ木ももっと利用者を広げたいのですが、なかなか難しいです。集会所に来れない人のお宅には訪問したりしています。管理事務所に来てくれる人は、9時から16時45分まで開いているので、いろんな住民と喋ることはできています。普段つながってさえいれば、必要な時にエルファにもつなげたりしますね。

村田：できることはしたい。自分のことはギリギリまで自分でしたいのが高齢者だと思います。

村木：単なる喫茶の利用というだけでなく、見守りもできる場所。そんな喫茶店もいいですよ。本人が選択できるのがいいです。自分でちゃんとプランを決められる人が多いです。

鄭：介護保険を使っている、自由に利用できるのがいいですね。

村木：介護保険を使っている人だからこそ、選択の幅を確保するのが大事だと思います。

村田：「あの人が来ていない」と気にかける人がいたりしますしね。

村木：制度の外で、住民のニーズを中心に展開できますよね。にこにこや、新たに始まったネットワークサロンの事業（市の地域・多文化交流事業）としてやっているのですか？

村田：そうではないんです。自主事業です。

鄭：そうなんですか！介護予防などは、国が強化する方向なのですね。



東松ノ木市営住宅の会食

#### ◇もっと情報交換を！

村田：こういう事業は持ち出しが多くなりますが、「食事」が一番人が集まりますよね。

村木：元気の素です！

鄭：食事は作れても、一人で食べるのは寂しいですね。

村木：東九条は狭いから、事業所同士の顔が見える関係であれば、プライバシーのこともありますけど、利用者の側に立った取り組みができますよね。ネットワークサロンも活用して、ニーズを把握して、利用者にとって居心地の良い場所を作れたらいいですね。

鄭：団体同士が交流するというのは面白いと思いました。近所の人たちが利用することを通じて、再会したり、出会うこともできますよね。

村田：デイサービスの取り組みとして、団体で利用されることに最初は驚いたけれど、ずっと利用してくれているので、いい感じで利用してもらっていると思います。土日は「いのちのネットワーク」（路上生活から在宅生活に移行した人たちをサポートする活動）などもあるので利用していらっしゃる高齢者もいます。互いのニュースや便りを団体同士でもっと共有することができればいいですね。



希望の家「にこにこや」（高齢者交流室）

（おわり）

## <サロンへのメッセージ> リヴァプールを歩いて感じたこと



空き家地区のテラスハウスのリフォーム（リヴァプール近郊）

9月に、はじめてイギリスを訪れました。7つの地方都市を歴訪し、人口減少から抜け出すための色々な政策の現場を視察してきました。リヴァプール近郊では、テラスハウスと呼ばれる長屋形式の低層住宅地で空き家が増えており、除却と改修を同時に進めていました。空き家が多い地区には移民が多く住んでいるといいます。広大な空き地と除却予定の空き家群を目の当たりにしました。

国勢調査によれば、市内人口は2001年の42万人から2011年の50万人へとおよそ8万人の増加があったとされます。20歳代、30歳代とその子世代を中心とする若い人が増えています。現地の研究者に聞いたところでは「白人層が市外に転出し、移民層が市内で増えた結果だ」とのことですので、少し複雑な感想を持ちました。個々の地域の整備再編が結果として都市全体の人口増加につながるものの、地区の性格が変わっていくことも一方で避けられないようです。簡単な比較はできませんが、持続的な地域運営を行うサロン活動が中核となり、人々のつながりとか相互扶助を大事にする東九条地区の良さを保ちつつ、活力ある京都の先頭ランナーになって、ひいては都市人口の増加を先導して欲しいなと思います。

（立命館大学 吉田 友彦）

### ◆ネットワークサロンとは？

京都市地域・多文化交流ネットワークサロンは、京都市の事業として実施されています。プロポーザル（公募）、審査を経て、2011年7月より、社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会地域福祉センター希望の家が管理・運営を行っています。南区東九条地域の歴史的な特性から、多様な背景を持った人たちが交流し、共生するための社会事業を実施するためのセンターとして設立されました。ネットワークサロンの趣旨に賛同する地域団体や社会団体とともに、地域交流と多文化共生を促進する事業を進めています。ホームページやメールマガジンを通じて、情報発信をしています。ぜひ一度、当サロンにお越しください。多様な企画やイベントがあなたをお待ちしています。

□所在地 〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）

□TEL 075-671-0108 □FAX 075-691-7471 □E-Mail [salon\\_kyoto@ck9.so-net.ne.jp](mailto:salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp)

□開館時間 9時～17時 □WEBサイト [http://www016.upp.so-net.ne.jp/k\\_salon/](http://www016.upp.so-net.ne.jp/k_salon/)

□アクセス 京都駅・京阪東福寺駅・地下鉄九条駅 徒歩10分 市バス42・202・207・208 九条河原町